

第42回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成27年9月25日（金） 15：30－16：45

2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、青木委員、中須賀委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

松本内閣府大臣政務官、石原内閣府審議官、小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、高見宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、松井宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官

4. 議事次第

(1) 平成28年度概算要求における宇宙関係予算について

(2) 宇宙安全保障部会、宇宙民生利用部会、宇宙産業・科学技術基盤部会 からの報告

(3) 宇宙基本計画工程表改訂に向けた今後の進め方

(4) その他

5. 議事

冒頭、松本政務官から以下のような挨拶があった。

松本政務官：

- ・ 地元・国分寺市で、国際宇宙ステーションに滞在する油井飛行士と子供たちが交信するイベントに参加した。こうした活動を通じて、次世代を担う子どもたちが宇宙活動の発展を担ってくれることに期待。
- ・ 宇宙システム海外展開タスクフォースの第1回上級会合に出席した。今後必要があれば具体的な案件獲得に向けてトップセールスに努めていく。
- ・ 年末の工程表改訂に向けて、中間とりまとめで指摘された事項を重点的に議論すべき。自分は防災担当の政務官も兼務しているが、リモートセンシング衛星を活用した広域的な災害状況把握は効果的。また、IoTやビッグデータなどを活用した新産業・新サービスの拡大に期待。
- ・ 宇宙政策をさらに進めるため、山口大臣の下、旗振り役をしっかりと果たしてまいりたい。

(1) 平成 28 年度概算要求における宇宙関係予算について

平成 28 年度概算要求における宇宙関係予算について事務局から報告された。

○内閣府の SIP の内数は宇宙関係予算の合計に入っているのか。(中須賀委員)

●入っていない。(小宮宇宙戦略室長)

(2) 宇宙安全保障部会、宇宙民生利用部会、宇宙産業・科学技術基盤部会からの報告

宇宙安全保障部会の審議状況について、資料 2 に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙民生利用部会の審議状況について、資料 3 に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙産業・科学技術基盤部会の審議状況について、資料 4 に基づいて山川部会長から報告を行った。主な意見等は以下の通り。

<宇宙安全保障部会>

○情報収集衛星関連で、商用衛星の利用もあり得るのではないかという意見に対して説明があったが、例えば防衛省において、資料 1 に記載の通り、商用衛星の利用、画像の購入費用について前年度よりも充実をさせているという中で、そういった方針について議論はあったのか。(山崎委員)

●特に防衛省で商用衛星の画像をたくさん使ってもらおうという話は今の段階ではまだないと承知している。これは個人的な意見であるが、将来的には、やはり日本の衛星をなるべく多く使えるようにして、海外から買う量を減らしたいとは考えている。ただ、その点について踏み込んだ議論はなかった。(中須賀委員)

<宇宙民生利用部会>

○資料 3 の 2 ページ目の「スペース・ニューエコノミー・創造ネットワーク」に関する議論の中で、結局は人と人をどうつなげていくかという話であったと理解したが、具体的にこれからどのように進めるつもりか。(山川委員)

●1 つには、この民生部会でもぜひやろうということで議論になっていた、ベンチャー企業等を集めたカンファレンスを日本でやろうということで、10月26日の午後の開催に向けて、今準備を進めているところである。

この中では、日本のベンチャー企業だけではなくて、それに投資をする人たち等を集めて、どういうネットワークを組んでいけばいいかということのパネルディスカッションをやっていこうということで準備しているところである。

それ以外にも、例えば準天頂衛星の利用であるとか、リモートセンシング衛星の活用といったところで、さらに我々が、草の根的にやる気がある人あるいは大企業の中でもやる気がある人たちを見つけていくという努力をこれからやっていきたいと思っている。(中須賀委員)

<宇宙産業・科学技術基盤部会>

○経産省で進めている部品に関する戦略を検討する会合にも出ているが、その中でも、例えばロケットに関しては車載品というのが非常に魅力的であり、品質がそろっていて、実証試験をそれほどしなくても使えるという観点で有望であるというような話が出ていた。このような議論を踏まえて、車載品のロケットへの導入について何か議論はあったのか。(中須賀委員)

●9月8日の基盤部会の時点で、そのような車載品等の話は出ていなかったように記憶しているが、その前の段階ではそういった議論もしていたことがある。

ここからは個人的な意見というか、逆に質問になるのだが、もし車載品が技術的にロケットに使えたとしても、それが実際に使えるかどうかという問題があるのではないかと思うので、そのあたりも含めて今後さらに検討していく必要があると思っている。(山川委員)

○ご指摘のとおりであるので、いわゆる信頼性管理のレギュレーション自体にある程度手を入れていかないといけないということもあって、そんなに簡単ではないと思うが、部品費というのは全体のコストの中で、大きな割合を占めているので、大事に検討していかなければいけない課題だと思っている。引き続き、我々も経産省の検討会において議論していきたい。(中須賀委員)

(3) 宇宙基本計画工程表改訂に向けた今後の進め方

宇宙基本計画工程表改訂に向けた今後の進め方について、まず事務局から提案があり、審議を行った。続いて、各部会における工程表改訂の方向性について各部会長から提案があり、審議を行った。審議の結果、資料5の「宇宙基本計画工程表改訂に向けた進め方(案)」、資料6の「宇宙安全保障部会における工程表改訂作業で検討すべき論点(案)」、資料7の「宇宙民生利用部会における工程表改訂作業で検討すべき論点(案)」、資料8の「宇宙産業・科学技術基盤部会において検討すべき事項(案)」は委員会として了承された。主な意見は以下の通り。

○資料5の1ページ目の「2. 改訂にあたっての方針」の(1)について、項目ごとの成果目標そのものも工程表に組み込むというのは、10年後の目標だけではなくて、それぞれの年ごとにどこまでやっていなければいけないかといった細分化した目標も書き込むことになるのか。(中須賀委員)

●むしろ、これは3月に決定した各項目の成果目標も参考的に工程表の中に入れておくということ。そうすると、何を目標に工程表改訂を行ったかというのが明確になるという趣旨である。(小宮宇宙戦略室長)

●お手元の参考資料2は本年1月に宇宙政策委員会にてご了承いただいた資料で、1月

のその委員会で工程表のローリング見直しについて御議論いただいている。その資料の中にも成果目標についての記載がある。工程表の中に成果目標も組み込むということは以前に御議論していただいております、それを受けて、今回その作業をしていこうという趣旨である。(高見宇宙戦略室参事官)

○これからパブリックコメントに出す場合、どこを改訂したかということが、読み手の関心事だと思われる。前年からの変更点については見え消しか何かで読み手に分かりやすい形にしていきたい。(山崎委員)

●委員御指摘のように、パブリックコメントを求めるからには読んだ方がわかるようにしないといけないというのはもっともである。事務局で委員の御意見も踏まえて、読む方にもわかりやすい形でパブリックコメントを募集することとしたい。(高見宇宙戦略室参事官)

○宇宙安全保障部会に関して1つ、宇宙民生利用部会に関して1つ、意見を述べたい。安保部会については、日本全体としてのSSAの取りまとめ機能をどのように定義しておくかが重要である。特に防衛省のSSAにおける役割をどのように、分担をどこまで明確化するかという議論がないと、それまでに必要な光学なりレーダーなりの地上施設、関連施設を具体的にどう構築していくかという議論がなかなかできないのではないかと私は思っている。この点については平成30年代前半と言わずに、早急に前倒しでやっていかないといけないのではないかとというのが1つ目の指摘事項である。続いて、民生部会について1点意見を申し上げたい。資料7の上から3つ目の衛星リモートセンシングについてである。「宇宙政策委員会中間取りまとめ」の3ページ目の一番上のところにあるが、リモートセンシングに関しては、政府全体として利用ニーズを踏まえた衛星開発を行うべく宇宙政策委員会における評価検証の取り組みを今年度から開始するとなっている。その中でまず思い浮かぶのが、先進光学衛星と先進レーダー衛星であり、それぞれ今年度、来年度に着手する予定となっているが、まさにそういう時期に来ているのではないかと思っている。

繰り返しになるが、安全保障・公共・産業等の利用ニーズの観点、それから宇宙基本計画に記載されているデータの継続性、さらには、科学技術と安全保障や産業基盤との有機的サイクルに注目すべきだと書かれているため、そういったさまざまな観点も含めて先進光学衛星と先進レーダー衛星のフォローアップが重要だと考える。それはこの民生利用部会のリモセンの利用ニーズの掘り起こしというところと関連していると思う。(山川委員)

●全くご指摘のとおりである。防衛省と文科省、あるいはJAXAとの連携をどうやっていくか。この分担に関しては、早目に検討していかないと、それぞれ予算の問題があるのでうまくいかない。加えて、人の問題もあるので、そういったことは、今年度は

無理にしても、少なくとも来年度の早いうちには議論を進めたい。また、先進光学衛星、先進レーダー衛星は全くご指摘のとおりである。今回、長期的なスパンで、先進光学衛星、先進レーダー衛星を主に7年に1回ぐらいずつ作っていこうということで大きなかじを切った宇宙基本計画の最初の一步であるため、こういったものを我々の中でどのように評価して、どのようにかじ取りをしっかりと進めていくか、仕組みづくりもあわせて検討していかなければいけないと考えている。その観点で、今年度からできればこういったものの議論を進めていきたいと思っている。(中須賀委員)

○資料7の民生利用部会における項目の上から3つ目、リモートセンシングの利用ニーズの掘り起こしの観点について、衛星の利用に関しては、各省庁等、恐らく幅広い利用の可能性を検討されていると思うが、その中で特に重点的にこれからやっていきたい分野ということを経ているのかどうかを教えてほしい。あと、これは個人的な意見になるのだが、昨今の防災関連の国内・海外の動向を見ていると、社会的なニーズとして、宇宙からのリモセンを防災に生かしたいというニーズは非常に高まってきていると思われる。これまでも防災関連への取り組みについては要所要所で報告していただいているが、この点をより深掘りしていくなど、何か方向づけというものは考えているのか。(山崎委員)

●防災はしっかりと検討していきたいと思っている。これまでも何回か報告しているところだが、防災については、日本全体で一枚岩になって大きな問題に対して対処できるような体制が十分できているとは言いがたい。ただ衛星の絵を撮ればよいという問題ではなく、実はもっと大きな課題が防災についてはあるということである。それを我々がやるのかということはあるが、こうなった以上、ある程度こちらからガイドしてでもやっていく、それぐらいの心づもりでこの防災の課題は扱っていきたいと考えているところである。

また、「宇宙政策委員会中間取りまとめ」の後半に幾つか記載があるが、防災・減災のほか、例えば交通、物流、農林、水産等、幾つかの分野の分野が書いているので、こういったところが最初のきっかけになると思われる。大事なことは、やはり深めるということである。幾らお題目を変えてもだめで、それを深くやることが重要である。もう一つ大事なものは、それを実際に動かす人なり組織を同定していくということである。そこを明確にしていけないと結局は動かないので、そこは特に重点化してやっていこうということで民生部会の中では議論しているところである。いきなり全部はできないので、やはりプライオリティーを決めて効果のあるところから順番に進めていくべきと。そのように検討を進めてまいりたい。(中須賀委員)

○調査分析・戦略立案機能の強化ということで、拠点というか、誰が責任を持って情報を集約していくか。組織、あるいは人になるのか、そういったものが必要になると

思うがこの点についての検討というのはどのようなものか。(中須賀委員)

●調査分析・戦略機能については内閣府が中心となって検討することになっている。まさに御指摘いただいた点も含めて、これから基盤部会のほうで議論していただくことになっているので、次回以降、また御報告させていただくことになる。(松井宇宙戦略室参事官)